

SD シリーズ共通設定マニュアル

V1.12

SD500/SD700/SD380 シリーズ

EL100, EL300, SD1000, SD2000, LG100, LG300, FS100, FS300, WD200/201 etc.



株式会社エリート

目次

1	全体設定	3
◆1-1	メイン設定バーコード	3
2	インターフェースと読込モード	5
◆2-1	インターフェースの選択	5
◆2-2	読取モードの選択	7
3	通信設定	9
◆3-1	シリアルモードパラメーターの選択 1	9
◆3-2	Keyboard の設定 1	15
◆3-3	出力キャラクター(文字)の設定 1	19
4	バーコード	23
◆4-1	バーコードの設定 1	23
◆4-2	JAN・UPC・EAN の読込設定 1	33
◆4-3	CODE 39 の読込設定 1	37
◆4-4	CODE 128 の読込設定 1	41
◆4-5	Interleave 25 の読込設定 1	45
◆4-6	Industrial 25 の読込設定 1	49
◆4-7	Matrix 25 の読込設定	53
◆4-8	CODABAR/NW7 の読込設定 1	55
◆4-9	Code 93 の読込設定	59
◆4-10	CODE 11 の読込設定 1	61
◆4-11	MSI/PLESSEY の読込設定	65
◆4-12	Code 2 of 6 の読込設定	67
◆4-13	LCD255 の読込設定	69
◆4-14	Telepen の読込設定 1	71
◆4-15	GS 1 Databar の読込設定	75
5	その他の設定	77
◆5-1	言語選択	77
◆5-2	バーコード ID	79
◆5-3	ネガ反転バーコード	85
◆5-4	読込データ検証	85
◆5-5	ブザー音	85
◆5-5-2	ブザー音の設定 II (オプション設定)	87
◆5-6	スキャン間隔	89
◆5-7	逆転送信	91
◆5-8	データ編集(削除)	93
◆5-9	データ編集(付加)	97
付属テーブル	I	101
付属テーブル	II ASCII 文字 1	102
付属テーブル	III	107

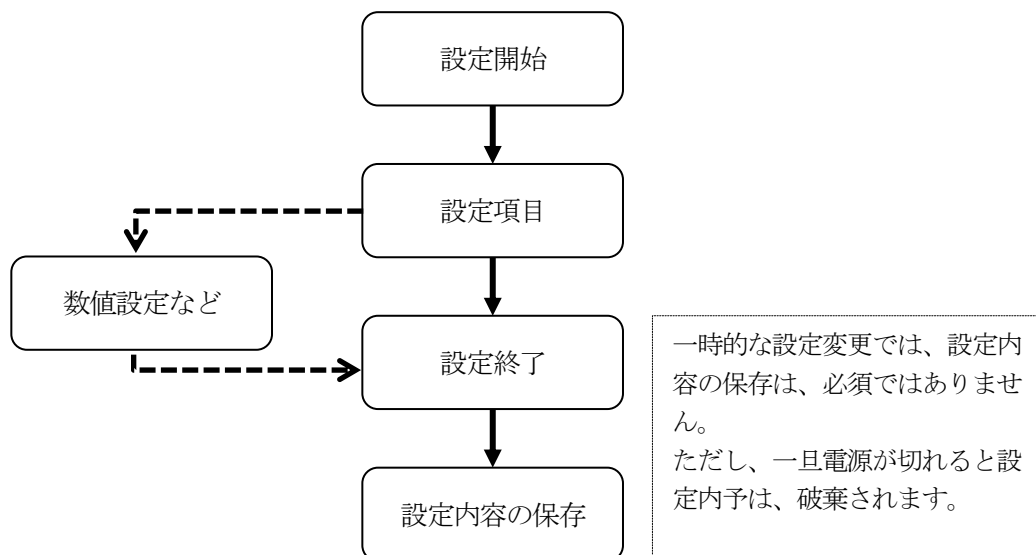
改訂履歴

Ver.	日付	記事
V1.0	2017/06/30	公開用 初版
V1.10	2017/10/02	機種追加、バイブレーター設定追加 (確定版)
V1.12	2017/10/04	V1.1 より誤字等の修正

1 全体設定

◆1-1 メイン設定バーコード

SD シリーズバーコードリーダーでは、以下の様な手順で設定用バーコードを読み込んで各種設定を行います。



設定項目によっては、文字数や、文字の指定など”引数”の選択が必要な設定もあります。詳細については、各設定項目のページで確認して下さい。

右ページの設定バーコード説明

■設定内容の保存

選択した設定内容を保存します。

■パラメーターの呼び出し

保存されている設定を呼び出します。

■リセット（初期化） *この設定は、設定開始の読込無しで機能します。

選択した設定内容を破棄し、工場出荷時に戻します。

■設定を中止

選択した設定内容を保存せずに終了します。

■バージョン情報 *このバーコードは単体で機能します。

本体のファームウェア情報を表示します。

*設定開始・設定終了・設定内容の保存は、各設定ページにもあります。

◆1-1 メイン設定バーコード

設定内容の保存



%\$+/0

パラメーターの呼び出し



%\$+/1

リセット (初期化)



%\$+/2

設定開始



%\$+/3

設定終了



%\$+/4

設定を中止



%\$+/6

バージョン情報



%\$+/5

2 インターフェースと読込モード

◆2-1 インターフェースの選択

設定手順



SD シリーズでは、一部の機種を除き、インターフェースケーブルを取り替えることができます。取り替え不可能な機種でも、正しいインターフェースに設定をしないと、文字化けなどの現象が発生します。

出荷時は、購入時に選択されたインターフェースに設定し出荷していますが、リセット（初期化）を実行すると、キーボードモードに設定が戻ります。

リセット(初期化)後は、正しい設定に再設定します。

■キーボードモード

バーコードリーダーは、キーボードとして動作します。

普段お使いのアプリに手を加えること無く、キーボードから入力をしたように動作します。

■WAND エミュレーション

POS などに利用されるモードです。通常は使用しません。

■RS232 モード

RS232 シリアル通信でデータを送信します。

PC にシリアルポート（COM ポート）が、必要です。

また、Windows OS などでは、専用のシリアル通信でデータを受け取れる仕組み（ソフト、ドライバーなど）が必要です。

SD シリーズ本体も、外部電源が必要となります（DC5V）専用 AC アダプタを準備しています。

■USB モード

USB HID モード（USB キーボード）で使用します。

◆2-1 インターフェースの選択

設定開始



%\$/3

【キーボードモード】



%00U0

WAND エミュレーション



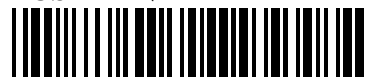
%00M2

RS232 モード



%00U8

USB モード



%0X08

設定終了



%\$/4

設定内容保存



%\$/0

◆2-2 読取モードの選択

設定手順



スイッチ(トリガー)を押したときの動作や、読み取りが完了した後の振る舞いを設定します。

*出荷時は【標準モード】

■標準モード (Good Read OFF)

スイッチを押すと発光し、スキャンすると消灯。
点灯してから一定時間内にスキャンしないと消灯。

■トリガーON/OFF

スイッチを押している間は発光し、スキャンすると消灯。

■常時点灯モード

スイッチを押すと発光し、次にスイッチを押すまで発光を続ける。

■テストモード

スイッチを押すと発光し、同じバーコードでも読み続ける。

■自動点灯モード

パソコンの電源がONになると自動的に発行し、常に発光し続ける。
スイッチを押してもLEDは消灯出来ない。

■常時点滅モード

スイッチを押すと点滅し、次にスイッチを押すまで点滅し続ける。点滅状態でバーコードに近づけると点灯に変わる。

■自動点滅モード

パソコンの電源がONになると自動的に点滅し、バーコードに近づけると点灯に変わる。一定時間内にスキャン範囲にバーコードが無いと自動点滅に戻る。
スイッチを押してもLEDを消灯する事は出来ない。

■オートスキャンモード

用紙を近づけると、自動で読み取りを開始します。読み取り範囲から用紙が無くなると待機状態になる。

この機能は、一部機種へのオプション搭載です。

◆2-2 読取モードの選択

設定開始



%\$/3

【標準モード】



%0271

トリガー ON/OFF



%0270

常時点灯モード



%0272

テストモード



%0275

自動点灯モード



%0273

常時点滅モード



%0274

自動点滅モード



%0276

オートスキャンモード(OP)



%09F8

設定終了



%\$/4

設定内容保存

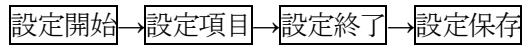


%\$/0

3 通信設定

◆3-1 シリアルモードパラメーターの選択 1

設定手順



RS232 通信に必要な、各種パラメーターを設定します。

■ボーレート *出荷時は【9600bps】

通信速度を、設定の中から選択します。

ホスト(パソコン)と同じボーレートで無ければなりません。

選択可能なボーレートは、以下の通り。

1,200bps, 2,400bps, 4,800bps, 9,600bps, 19,200bps, 38,400bps

■データビット *出荷時は【8ビット】

データビットを設定します。

ホスト(パソコン)と同じデータビットで無ければなりません。

7bit,または 8bit のうちどちらかを選ぶ。

◆3-1 シリアルモードパラメーターの選択 1

■ボーレート *出荷時は【9600bps】

設定開始



%\$/3

1200



%0Y71

2400



%0Y72

4800



%0Y73

【9600】



%0Y77

19200



%0Y74

38400



%0Y75

■データビット *出荷時は【8ビット】

7ビット



%0Y80

【8ビット】



%0Y88

設定終了



%\$/4

設定内容保存



%\$/0

◆3-1 シリアルモードパラメーターの選択 2

設定手順



RS232 通信に必要な、各種パラメーターを設定します。

■ストップビット *出荷時は【1ビット】

接続条件にあったストップビットを1つだけ選択する。
ホスト(パソコン)と同じストップビットで無ければなりません。
1bit、2bit のうちどちらかを選ぶ。

■パリティ *出荷時は【なし】

接続条件にあったパリティを1つだけ選択する。
ホスト(パソコン)と同じパリティで無ければなりません。
なし、偶数、奇数、マーク、スペースから選択

◆3-1 シリアルモードパラメーターの選択 2

■ストップビット *出荷時は【1ビット】



■パリティ *出荷時は【なし】



◆3-1 シリアルモードパラメーターの選択 3

設定手順

設定開始→設定項目→設定終了→設定保存

RS232 通信に必要な、各種パラメーターを設定します。

■ハンドシェイク *出荷時は【ハンドシェイクなし】

接続条件にあったハンドシェイクを設定します。

ホスト(パソコン)と同じハンドシェイクで無ければなりません。

RTS/CTS, ACK/NAC, XON/XOFF それぞれについて、あり, なし, から選択します。

◆3-1 シリアルモードパラメーターの選択 3

■ハンドシェイク *出荷時は【なし】

設定開始



%\$+/3

ハンドシェイク (RTS/CTS)

あり



%0188

【なし】



%0180

ハンドシェイク (ACK/NAK)

あり



%0144

【なし】



%0140

ハンドシェイク (XON/XOFF)

あり



%03K4

【なし】



%03K0

設定終了



%\$+/4

設定内容保存



%\$+/0

◆3-2 Keyboard の設定 1

設定手順

設定開始 → 設定項目 → 設定終了 → 設定保存

■キーボードの種類 *出荷時は【PC/AT, PS/2】

使用する Keyboard を選択します。

ホスト(パソコン)に合わせます。

*Apple ADB, NEC PC-9821 に設定可能ですが、インターフェースケーブルの提供はありません。

*機種によっては、交換用インターフェースケーブルの提供はありません。

■シフトキーの選択 *出荷時は【無指定】

シフトキーを押し下げ状態を再現します。

■無指定

大文字は、大文字のまま、小文字は小文字のまま出力。

■シフトキーON

すべてのデーターを大文字で出力。

■シフトキーOFF

すべてのデーターを小文字で出力。

*接続されているキーボードの CapsLock が ON の場合、さらに状態は反転します。

◆3-2 Keyboard の設定 1

■キーボードの種類 *出荷時は【PC/AT, PS/2】

設定開始



%\$/3

【PC/AT,PS2】



%0ZF0

NEC PC-9821



%0ZF3

Apple ADB(OLD Mac)



%0ZF4

■シフトキーの選択 *出荷時は【無指定】

【無指定】



%0330

シフトキー ON



%0331

シフトキー OFF



%0332

設定終了



%\$/4

設定内容保存



%\$/0

◆3-2 Keyboard の設定 2

設定手順



■CapsLock の感知 *出荷時は【無効】

キーボードの CapsLock 状態を検知し、小文字、大文字を正しく送信します。

*一部機種では、正しく動作しません。無効のままお使い下さい。

■ALT モードの選択 *出荷時は【選択しない】

ALT モードを選択すると、キーボードの Capslock が ON・OFF のどちらの状態でも大文字・小文字逆転せずに表示出来ます。

ALT モードを選択すると、データの表示速度が遅くなる場合もあります。

*一部機種では、正しく動作しません。選択しないのままお使い下さい。

■数字キーの選択 出荷時は【選択しない】

送信する数字を、数字キー (10Key) で送信するか、アルファベットキー (Full key) で送信するかを選択する。

*数字キーを選択の場合、Num Lock キーの影響を受けます。

どちらを選択しても、画面上は同じになりますが、ご使用のアプリにより、違う結果になる場合があります。

◆3-2 Keyboard の設定 2

■CapsLock の感知 *出荷時は【無効】

設定開始



%\$/3

【無効】



%0X80

有効



%0X88

■ALT モードの選択 *出荷時は【選択しない】

【選択しない】



%0300

選択する



%0308

■数字キーの選択 *出荷時は【選択しない】

選択する



%01K4

【選択しない】



%01K0

設定終了



%\$/4

設定内容保存



%\$/0

◆3-3 出力キャラクター(文字)の設定 1

設定手順

設定開始 → 設定項目 → 設定終了 → 設定保存

■ 終端付加制御コードの選択 *出荷時は【Enter(CR) + 改行(LF)または、Enter(CR)のみ】

バーコードデータの最後に、制御コードを付加します。
使用状態に最も合う制御コードを1つ選択します。

*出荷時期により出荷時設定が異なる場合もあります。

■ Enter(CR) + 改行(LF)

Windows で標準的に用いられる、改行のコードです。

Windows のバージョンによっては、2行改行したり、別のアプリが起動したりの弊害が出る場合もあります。その場合は、ほかの設定を試してください。

ASCII コード (0x0d, 0x0a)

■ なし

終端に付加コードを付けません。

■ Enter (CR) のみ

改行、確定に使われる Enter(CR)を付加します。

Enter(CR) + 改行(LF)で、思わぬ動作になる場合は、こちらをお試しく下さい。

ASCII コード (0x0d)

■ 改行(LF)

改行コード(LF)を付加します。

ASCII コード (0x0a)

■ スペース

スペースを付加します。

ASCII コード (0x20)

■ タブ (HT)

タブを追加します。

ASCII コード (0x09)

■ STX-ETX

データ先頭に STX、終端に ETX を追加します。

ASCII コード (0x02, 0x03)

◆3-3 出力キャラクター(文字)の設定 1

■ 終端付加制御コードの選択 *出荷時は【Enter(CR)+改行(LF)または、Enter(CR)のみ】

設定開始



%\$/3

【Enter(CR)+改行(LF)】



%7S2+

なし



%7S7+

【Enter(CR)のみ】



%7S0+

改行(LF)



%7S1+

スペース



%7S4+

タブ(HT)



%7S3+

STX-ETX



%7S5+

設定終了



%\$/4

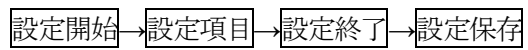
設定内容保存



%\$/0

◆3-3 出力キャラクター(文字)の設定 2

設定手順



■文字間転送待ち時間の選択 *出荷時は【0ms】

送り出すデータの文字と文字の時間の間隔を指定します。
特別な事情が無い限り、0ms で問題有りません。

◆3-3 出力キャラクター(文字)の設定 2

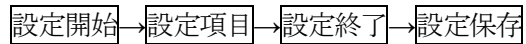
■文字間転送待ち時間の選択 *出荷時は【0ms】



4 バーコード

◆4-1 バーコードの設定 1

設定手順



■読みバーコードの選択 *出荷時はこのページ全て【ON】

【ON】を選択した種類のバーコードは、スキャンすることが出来ます。
スキャンする必要のない種類は【OFF】にすることにより、誤読を防ぐことが出来ます。
使用予定の無いバーコードは、OFF に設定する事をお薦めします。

*対象となるバーコードの種類が判らないときは、コード種別 ID の設定を ON に設定する事で、読み込んだバーコードを ID 付きで出力出来ます。
詳しい設定は、79 ページを参照下さい。

*本スキャナーで読み込む事が可能な全てのバーコードの読込を ON にするには、31 ページの【全てのバーコードをスキャン可能にする】を ON に設定します。

◆4-1 バーコードの設定 1

■読込バーコードの選択 *出荷時は全て【ON】

設定開始



%\$/3

UPC-A 【ON】



%0A44

UPC-A OFF



%0A40

UPC-E 【ON】



%0B08

UPC-E OFF



%0B00

EAN/JAN-13/ISBN-13 【ON】



%0A22

EAN/JAN-13/ISBN-13 OFF



%0A20

ENA-8/JAN-8 【ON】



%0A11

ENA-8/JAN-8 OFF



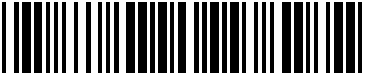
%0A10

CODE 39 【ON】



%0E08

CODE 39 OFF



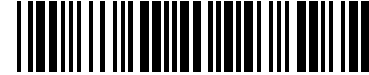
%0E00

CODE 128 【ON】



%0F08

CODE 128 OFF



%0F00

設定終了



%\$/4

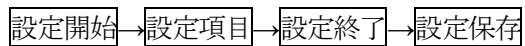
設定内容保存



%\$/0

◆4-1 バーコードの設定 2

設定手順



■読みバーコードの選択 *出荷時はこのページ全て【ON】

【ON】を選択した種類のバーコードは、スキャンすることが出来ます。
スキャンする必要のない種類は【OFF】にすることにより、誤読を防ぐことが出来ます。
使用予定の無いバーコードは、OFFに設定する事をお勧めします。

左の列が、有効「ON」で、右の列が、無効「OFF」です。

*対象となるバーコードの種類が判らないときは、コード種別IDの設定をONに設定する事で、読み込んだバーコードをID付きで出力出来ます。
詳しい設定は、79ページを参照下さい。

*本スキャナーで読み込む事が可能な全てのバーコードの読込をONにするには、31ページの【全てのバーコードをスキャン可能にする】をONに設定します。

◆4-1 バーコードの設定 2

■読入バーコードの選択 *出荷時は全て【ON】

設定開始



%\$/3

CODARBAR/NW7 【ON】



%0J08

CODARBAR/NW7 OFF



%0J00

Interleve 25 【ON】



%0G08

Interleve 25 OFF



%0G00

設定終了



%\$/4

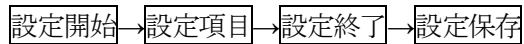
設定内容保存



%\$/0

◆4-1 バーコードの設定 3

設定手順



■読みバーコードの選択 *出荷時はこのページ全て【OFF】

【ON】を選択した種類のバーコードは、スキャンすることが出来ます。
スキャンする必要のない種類は【OFF】にすることにより、誤読を防ぐことが出来ます。
使用予定の無いバーコードは、OFFに設定する事をお薦めします。

左の列が、有効「ON」で、右の列が、無効「OFF」です。

*対象となるバーコードの種類が判らないときは、コード種別IDの設定をONに設定する事で、読み込んだバーコードをID付きで出力出来ます。
詳しい設定は、79ページを参照下さい。

*本スキャナーで読み込む事が可能な全てのバーコードの読込をONにするには、31ページの【全てのバーコードをスキャン可能にする】をONに設定します。

◆4-1 バーコードの設定 3

■読込バーコードの選択 *出荷時は全て【OFF】

設定開始



%\$/3

Industrial 25 ON



%0H08

Matrix 25 ON



%0I08

CODE 93 ON



%0K08

CODE 11 ON



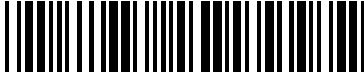
%0L08

China Postage ON



%CM08

MSI/PLESSEY ON



%CN08

Industrial 25 【OFF】



%0H00

Matrix 25 【OFF】



%0I00

CODE 93 【OFF】



%0K00

CODE 11 【OFF】



%0L00

China Postage 【OFF】



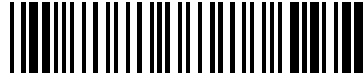
%CM00

MSI/PLESSEY 【OFF】



%CN00

設定終了



%\$/4

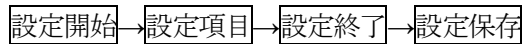
設定内容保存



%\$/0

◆4-1 バーコードの設定 4

設定手順



■読みバーコードの選択 *出荷時はこのページ全て【OFF】

【ON】を選択した種類のバーコードは、スキャンすることが出来ます。
スキャンする必要のない種類は【OFF】にすることにより、誤読を防ぐことが出来ます。
使用予定の無いバーコードは、OFF に設定する事をお薦めします。

左の列が、有効「ON」で、右の列が、無効「OFF」です。

*対象となるバーコードの種類が判らないときは、コード種別 ID の設定を ON に設定する事で、読み込んだバーコードを ID 付きで出力出来ます。
詳しい設定は、79 ページを参照下さい。

*本スキャナーで読み込む事が可能な全てのバーコードの読込を ON にするには、31 ページの【全てのバーコードをスキャン可能にする】を ON に設定します。

◆4-1 バーコードの設定 4

■読込バーコードの選択 *出荷時は全て【OFF】

設定開始



%\$/3

CODE 2 of 6 ON



%0P08

CODE 2 of 6 【OFF】



%0P00

LCD 255 ON



%0Q08

LCD 255 【OFF】



%0Q00

Telepen ON



%0T08

Telepen 【OFF】



%0T00

設定終了



%\$/4

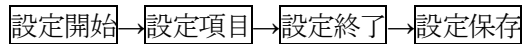
設定内容保存



%\$/0

◆4-1 バーコードの設定 5

設定手順



■読みバーコードの選択 *出荷時はこのページ全て【OFF】

【ON】を選択した種類のバーコードは、スキャンすることが出来ます。
スキャンする必要のない種類は【OFF】にすることにより、誤読を防ぐことが出来ます。
使用予定の無いバーコードは、OFF に設定する事をお勧めします。

左の列が、有効「ON」で、右の列が、無効「OFF」です。

■全てのバーコードをスキャン可能にする

*本スキャナーで読み込む事が可能な全てのバーコードの読込を ON にします。

*対象となるバーコードの種類が判らないときは、コード種別 ID の設定を ON に設定する事で、読み込んだバーコードを ID 付きで出力出来ます。
詳しい設定は、79 ページを参照下さい。

◆4-1 バーコードの設定 5

■読入バーコードの選択 *出荷時は全て【OFF】

設定開始



GS1 DataBar Omnidirectional

ON



【OFF】



GS1 DataBar Limited

ON



【OFF】



GS1 DataBar Expanded

ON



【OFF】



全てのバーコードをスキャン可能にする



設定終了

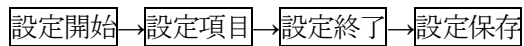


設定内容保存



◆4-2 JAN・UPC・EANの読込設定 1

設定手順



JAN, UPC, EAN の読込に関する詳細設定を行います。

■UPC-A を JAN/EAN-13 に変換 *出荷時は【無効】

UPC-A(12桁)を、商品コードが13桁で想定されているシステムに対応させるために、先頭にゼロを追加して、13桁で出力します。

■ISBN-1C 有効 *出荷時は【ISBN-13】

ISBNコードのうち上3桁、接頭数字”978”または”979”を取り除いた10桁を出力します。

■ISSN *出荷時は【無効】

ISSNコードのうち上3桁、接頭数字”977”と、下2桁(JAN/EAN-13のチェックデジットを含む)を取り除き、ISSNコード+ISSNチェックデジットの8桁を出力します。

■アドオンコード *出荷時は【無効】

アドオンの送信を有効にした場合、アドオン無しを読み込まない。

■UPC-E 拡張 *出荷時は【無効】

UPC-E(6桁)をUPC-Aに変換出力する。

UPC-Eは、UPC-Aの12桁を、5桁に圧縮したコード体系です。

■EAN-8=EAN-13 *出荷時は【無効】

JAN/EAN-8のデーターの前にゼロを付加し13桁で出力します。

■GTIN フォーマット *出荷時は【無効】

UPC-A, EAN/JAN-13桁を先頭にゼロを付加し14桁で出力します。(GTIN-14)

UPC-Eでは、UPC-Aに変換出力します。(GTIN-12)

商品コードが、GTINで入力されることを想定しているシステムに、桁数を揃えることが出来ます。

◆4-2 JAN・UPC・EANの読込設定 1

設定開始



%\$/3

UPC-A=JAN/EAN-13

ON



%0AK4

【OFF】



%0AK0

ISBN-1C

ON



%0B88

ISBN-13 **【ON】**



%0B80

ISSN

ON



%0B44

【OFF】



%0B40

Decode with Supplement

ON



%0100

【OFF】



%0108

EXPAND UPC-E

ON



%0BH1

【OFF】



%0BH0

EAN8=EAN13

ON



%0A08

【OFF】



%0A00

GTIN Format

ON



%0X44

【OFF】



%0X40

設定終了



%\$/4

設定内容保存



%\$/0

◆4-2 JAN・UPC・EANの読込設定 2

設定手順



JAN, UPC, EAN の読込に関する詳細設定を行います。

■アドオンの設定 *出荷時は【送信しない】

JAN/UPC/EANでは、本体バーコードに続けて、2桁または5桁のバーコードを追加する事が出来ます。

*雑誌コードの価格表示など

送信しない、2桁のみ送信、5桁のみ送信、2桁・5桁共に送信を選択できます。



■チェックデジットの送信 *出荷時は【送信する】

JAN/UPC/EAN、ISSNでは、データーの最後はチェックデジットです。

チェックデジットのチェックは必須ですが、送信した結果を送信しない設定が可能です。

バーコードの種類毎に設定します。

◆4-2 JAN・UPC・EANの読込設定 2



■アドオンの設定

【送信しない】



2桁のアドオンは送信



5桁のアドオンは送信



5桁、2桁両方送信



■チェックデジットの送信

【送信】



UPC-A

送信しない



【送信】



UPC-E

送信しない



【送信】



EAN/JAN-8

送信しない



【送信】



EAN/JAN-13

送信しない



【送信】



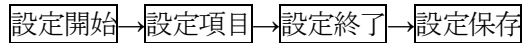
ISSN

送信しない



◆4-3 CODE 39 の読込設定 1

設定手順



CODE39 の読込に関する詳細設定を行います。

■CODE39 の種類

CODE39 には、いくつかの種類が存在します。

Full ASCII とスタンダード

*出荷時は【スタンダード】

Italian Pharmacy/CODE32

*出荷時は【OFF】

■チェックデジットの扱い

*出荷時は【処理はしない】

CODE39 では、チェックデジットは必須ではありません。

必要な場合は、モジュラス 43 で計算します。

チェックデジットは、データーとの区別が無い場合、チェックデジット有りで作成したバーコードも処理はしないを選択している場合、データーとして処理します。

■例 ABC123 にチェックデジット付加すると、ABC123\$となります。

処理はしない

ABC123\$

送信する

ABC123\$

チェックするが送信しない

ABC123

■送信する、チェックが送信しないを設定した場合、チェックデジットが正しくないバーコードは読込出来ません。

■スタート/ストップコード(*)の送信

*出荷時は【送信しない】

CODE39 では、データーの前後に、アスタリスク(*)が付いています。

送信の有無を選択できます。

■アスタリスクの処理

*出荷時は【デコードしない】

データーにアスタリスク(*)を含む場合、有効に設定します。

たとえば、1 2 3 * 4 5 6 (スタート/ストップを除く) を、読み込む場合の設定です。

*Full ASCII における “/ J” ではありません。

CODE39 のデーター中に、“*”が含まれることは通常ありません。

(スタート/ストップコードを除いて)

◆4-3 CODE 39 の読込設定 1

設定開始



%\$/3

■CODE39 のタイプ

【スタンダード】



%0EH1

Full ASCII



%0EH0

Italian Pharmacy /Code 32 ON



%0E80

【Italian Pharmacy /Code 32 OFF】



%0E88

■チェックデジットの送信

【処理はしない】



%0EM2

送信する



%0EM6

チェックするが送信しない



%0EM4

■スタート/ストップコード(*)の送信

送信



%0E44

【送信しない】



%0E40

■アスタリスクの処理

デコードする



%0E22

【デコードしない】



%0E20

設定終了



%\$/4

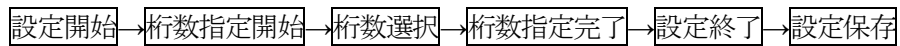
設定内容保存



%\$/0

◆4-3 CODE 39 の読込設定 2

設定手順



*桁数選択は、P101 付属テーブル I 数字のバーコード一覧から選択します。

CODE 39 は、バーコードの桁数に制限がありません。
読み込めるバーコードの桁数に制限を付けることで、誤読防止につながります。

■読込桁数を固定 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)

読込可能な桁数を固定します。

(*) は桁数に含みません。

固定桁数は、2 組設定可能です。

Code39 では、桁数の多いバーコードの途中までを読み込んでしまう可能性があるため、読込桁数の固定は、誤読対策に有効です。

■読込最小桁数を指定 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)

読込可能な最小桁数を制限します。

(*) は桁数に含みません。

Code39 では、桁数の多いバーコードの途中までを読み込んでしまう可能性があるため、読込最小桁数の指定は、誤読対策に有効です。

◆4-3 CODE 39 の読込設定 2

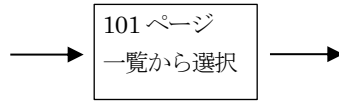


■CODE39 読込桁数の固定
【可変】(桁数を固定しない)



■CODE39 読込桁数を固定 1/2

桁数の指定開始①

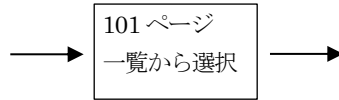


桁数の指定終了①



■CODE39 読込桁数を固定 2/2

桁数の指定開始②

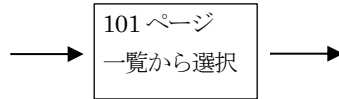


桁数の指定終了②



■CODE39 読込最小桁数を指定

桁数の指定開始



桁数の指定終了



◆4-4 CODE 128 の読込設定 1

設定手順

設定開始 → 設定項目 → 設定終了 → 設定保存

CODE128 の読込に関する詳細設定を行います。

■CODE128 の種類

CODE 128 には、いくつかの種類が存在します。

Full ASCII とスタンダード	*出荷時は【スタンダード】
Italian Pharmacy/CODE32	*出荷時は【OFF】

■チェックデジットの扱い *出荷時は【チェックするが送信しない】

CODE128 では、チェックデジットの付加は必須です。

バーコードの下にデータを表示する際は、チェックデジットを表示しないのが一般的です。

チェックデジットの扱い方を設定します。

処理はしない	チェックデジットの計算を行いません。
送信する	チェックデジットを送信します。
チェックはするが送信しない	チェックデジットの計算は行うが、送信はしません。

■FNC2 の有効化 *出荷時は【OFF】

FNC2 コード（一時記憶、連結などに利用）を有効にします。

◆4-4 CODE 128 の読込設定 1

設定開始



%\$/3

■CODE128 のタイプ

UCC/EAN 有効



%0F44

UCC/EAN 【無効】



%0F40

【】C1'Code フォーマット有効



%0F22

】C1'Code フォーマット無効



%0F20

【(GS)有効】



%0F11

(GS)無効



%0F10

■チェックデジットの送信

処理はしない



%0FN1

送信する



%0FN7

【チェックするが送信しない】



%0FN5

■FNC2

ON



%0F88

【OFF】



%0F80

設定終了



%\$/4

設定内容保存



%\$/0

◆4-4 CODE 128 の読込設定 2

設定手順



*桁数選択は、P101 付属テーブル I 数字のバーコード一覧から選択します。

CODE128 の読込に関する詳細設定を行います。

CODE128 は、比較的誤読の少ないバーコードなので、桁数の固定は重要ではありませんが、運用上必要な場合は、特定の桁数に固定できます。

■読込桁数の固定 1・2 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)
必要に応じて、読込可能な桁数を 2 種設定できます。

■読込最小桁数を指定 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)
必要に応じ、読込可能な最初小桁数を制限できます。

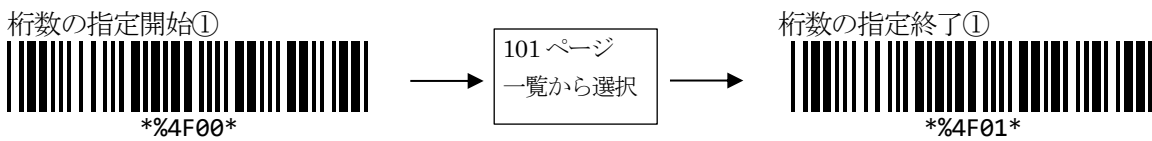
◆4-4 CODE 128 の読込設定 2



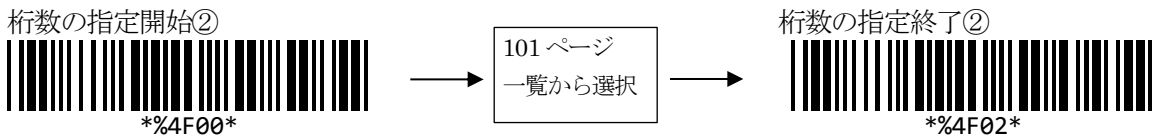
■CODE128 読込桁数の固定
【可変】(桁数を固定しない)



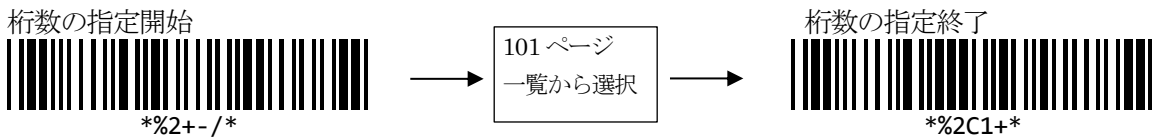
■CODE128 読込桁数を固定 1/2



■CODE128 読込桁数を固定 2/2



■CODE128 読込最小桁数を指定



◆4-5 Interleave 25 の読込設定 1

設定手順



Interleave 25 の読込に関する詳細設定を行います。
(インターリーブド 25、インターリーブド 2 of 5、ITF とも呼びます)

■チェックデジットの扱い *出荷時は【処理はしない】

Interleave 25 では、チェックデジットは必須ではありません。

必要な場合は、モジュラス 10 / ウェイト 3 で計算します。

処理はしない	チェックデジットの計算を行いません。
送信する	チェックデジットを送信します。
チェックはするが送信しない	チェックデジットの計算は行うが、送信はしません。

■偶数/奇数の設定 *出荷時は【偶数】

Interleave 25 は、数字 2 桁をバーコード 1 ユニットで表すため、偶数桁数データのみが有効です。
通常、奇数桁の Interleave 25 はありません。

■偶数/奇数の設定 *出荷時は【無効】

Interleave 25 の、派生種 Brazilian Banking Code の取り扱いを設定します。

◆4-5 Interleave 25 の読込設定 1



■チェックデジットの送信

【処理はしない】



送信する



チェックするが送信しない



■偶数/奇数の設定

【偶数】



OFF



■Brazilian Banking Code

【無効】



有効



◆4-5 Interleave 25 の読込設定 2

設定手順



*桁数選択は、P101 付属テーブル I 数字のバーコード一覧から選択します。

Interleave 25 の読込に関する詳細設定を行います。

Interleave 25 は、比較的誤読の少ないバーコードなので、桁数の固定は重要ではありませんが、運用上必要な場合は、特定の桁数に固定できます。

■読込桁数の固定 1・2 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)
必要に応じて、読込可能な桁数を2種設定できます。

■読込最小桁数を指定 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)
必要に応じ、読込可能な最初小桁数を制限できます。

◆4-5 Interleave 25 の読込設定 2



■Interleave 25 読込桁数の固定

【可変】(桁数を固定しない)



■Interleave 25 読込桁数を固定 1/2

桁数の指定開始①



101 ページ
一覧から選択



桁数の指定終了①



■Interleave 25 読込桁数を固定 2/2

桁数の指定開始②



101 ページ
一覧から選択



桁数の指定終了②



■Interleave 25 読込最小桁数を指定

桁数の指定開始



101 ページ
一覧から選択



桁数の指定終了



◆4-6 Industrial 25 の読込設定 1

設定手順



Industrial 25 の読込に関する詳細設定を行います。

* Industrial 25 は、日本では殆ど使われていないため詳細説明は省略します。

■ IATA25 タイプを有効に

* 出荷時は【無効】

■ チェックデジットの扱い

* 出荷時は【処理はしない】

処理はしない

チェックデジットの計算を行いません。

送信する

チェックデジットを送信します。

チェックはするが送信しない

チェックデジットの計算は行うが、送信はしません。

◆4-6 Industrial 25 の読込設定 1



■Industrial 25 のタイプ

IATA 25 有効



IATA 25 【無効】



■チェックデジットの送信

【処理はしない】



送信する

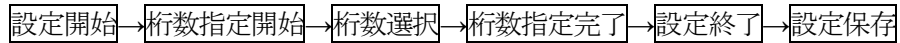


チェックするが送信しない



◆4-6 Industrial 25 の読込設定 2

設定手順



*桁数選択は、P101 付属テーブル I 数字のバーコード一覧から選択します。

Industrial 25 の読込に関する詳細設定を行います。

*Industrial 25 は、日本では殆ど使われていないため詳細説明は省略します。

必要な場合は、特定の桁数に固定できます。

■読込桁数の固定 1・2 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)

必要に応じて、読込可能な桁数を 2 種設定できます。

■読込最小桁数を指定 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)

必要に応じ、読込可能な最初小桁数を制限できます。

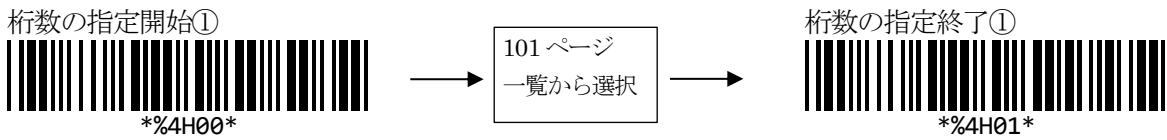
◆4-6 Industrial 25 の読込設定 2



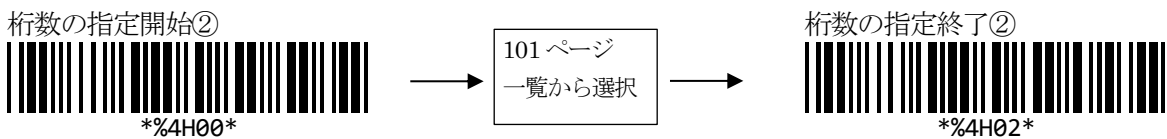
■Industrial 25 読込桁数の固定
【可変】(桁数を固定しない)



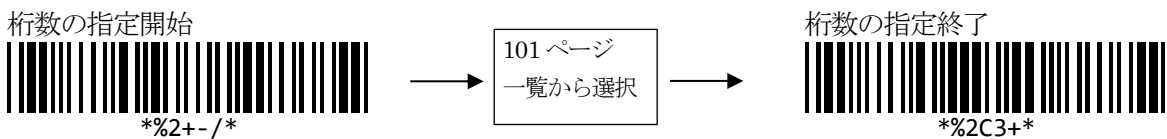
■Industrial 25 読込桁数を固定 1/2



■Industrial 25 読込桁数を固定 2/2



■Industrial 25 読込最小桁数を指定



◆4-7 Matrix 25 の読込設定

設定手順



Matrix 25 の読込に関する詳細設定を行います。

*Matrix 25 は、日本では殆ど使われていないため詳細説明は省略します。

- | | |
|---------------|--------------------------|
| ■チェックデジットの扱い | *出荷時は【処理はしない】 |
| 処理はしない | チェックデジットの計算を行いません。 |
| 送信する | チェックデジットを送信します。 |
| チェックはするが送信しない | チェックデジットの計算は行いが、送信はしません。 |

設定手順 桁数



*桁数選択は、P101 付属テーブル I 数字のバーコード一覧から選択します。

必要な場合は、特定の桁数に固定できます。

- 読込桁数の固定 1・2 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)
必要に応じて、読込可能な桁数を 2 種設定できます。

- 読込最小桁数を指定 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)
必要に応じ、読込可能な最初小桁数を制限できます。

◆4-7 Matrix 25 の読込設定



■チェックデジットの送信
【処理はしない】



チェックするが送信しない

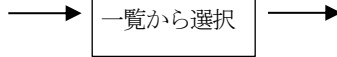


■Matrix 25 読込桁数の固定
【可変】 (桁数を固定しない)



■Matrix 25 読込桁数を固定 1/2

桁数の指定開始①

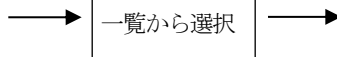


桁数の指定終了①



■Matrix 25 読込桁数を固定 2/2

桁数の指定開始②

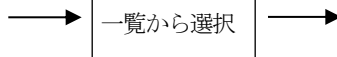


桁数の指定終了②



■Matrix 25 読込最小桁数を指定

桁数の指定開始



桁数の指定終了



◆4-8 CODABAR/NW7 の読込設定 1

設定手順



CODABAR/NW7 の読込に関する詳細設定を行います。

■スタートストップ文字の送信 *出荷時は【送信しない】

CODABAR (NW7 と呼ぶ) は、データの前後に、それぞれ、スタート文字、ストップ文字が必要です。

スタート文字、ストップ文字は、A, B, C, D の 4 文字から選択できます。

■スタートストップ文字の指定 1 *出荷時は【スタート A/B/C/D】【ストップ A/B/C/D】

スタート文字、ストップ文字は、A, B, C, D のいずれも可

■例 A123A でも、B123C でも可

■スタートストップ文字の指定 2 *出荷時は【スタート A/B/C/D】【ストップ A/B/C/D】

スタート文字、ストップ文字は、A, B, C, D の 4 文字から 1 文字を選んで設定します。

スタート/ストップ文字が、指定と違うバーコードは読込出来ません。

■例 スタート文字 A、ストップ文字 C に設定の場合

A123C は、読込出来ませんが、A123A は読込不可です。

◆4-8 CODABAR/NW7の読込設定 1



■スタート/ストップ文字(A/B/C/D)の送信

【送信】



送信しない



■スタート/ストップ文字の指定 1

スタート (A/B/C/D)



ストップ (A/B/C/D)



■スタート/ストップ文字の指定 2

スタート A



ストップ A



スタート B



ストップ B



スタート C



ストップ C



スタート D

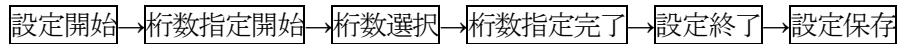


ストップ D



◆4-8 CODABAR/NW7 の読込設定 2

設定手順 桁数



*桁数選択は、P101 付属テーブル I 数字のバーコード一覧から選択します。

CODABAR/NW7 の読込桁数に関する詳細設定を行います。

必要な場合は、特定の桁数に固定できます。

■読込桁数の固定 1・2 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)
必要に応じて、読込可能な桁数を 2 種設定できます。

■読込最小桁数を指定 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)
必要に応じ、読込可能な最初小桁数を制限できます。

◆4-8 CODABAR/NW7 の読込設定 2



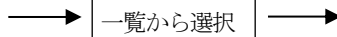
■CODABAR/NW7 読込桁数の固定

【可変】(桁数を固定しない)



■CODABAR/NW7 読込桁数を固定 1/2

桁数の指定開始①



101 ページ
一覧から選択

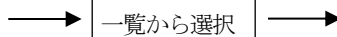


桁数の指定終了①



■CODABAR/NW7 読込桁数を固定 2/2

桁数の指定開始②



101 ページ
一覧から選択

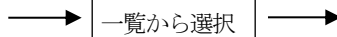


桁数の指定終了②



■CODABAR/NW7 読込最小桁数を指定

桁数の指定開始



101 ページ
一覧から選択



桁数の指定終了



◆4-9 Code 93 の読込設定

設定手順 チェックデジット

設定開始 → 設定項目 → 設定終了 → 設定保存

Code 93 の読込に関する詳細設定を行います。

*Code 93 は、日本では殆ど使われていないため詳細説明は省略します。

■チェックデジットの扱い
チェックはするが送信しない
処理はしない

*出荷時は【チェックはするが送信しない】
チェックデジットの計算は行うが、送信はしません。
チェックデジットの計算を行いません。

設定手順 桁数

設定開始 → 桁数指定開始 → 桁数選択 → 桁数指定完了 → 設定終了 → 設定保存

*桁数選択は、P101 付属テーブル I 数字のバーコード一覧から選択します。

必要な場合は、特定の桁数に固定できます。

■読込桁数の固定 1・2 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)
必要に応じて、読込可能な桁数を2種設定できます。

■読込最小桁数を指定 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)
必要に応じ、読込可能な最初小桁数を制限できます。

◆4-9 Code 93 の読込設定



■チェックデジットの送信
【チェックするが送信しない】

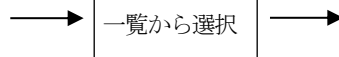


■Code 93 読込桁数の固定
【可変】 (桁数を固定しない)



■Code 93 読込桁数を固定 1/2

桁数の指定開始①

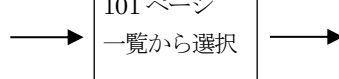


桁数の指定終了①



■Code 93 読込桁数を固定 2/2

桁数の指定開始②

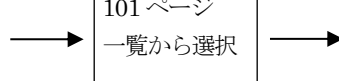


桁数の指定終了②



■Code 93 読込最小桁数を指定

桁数の指定開始



桁数の指定終了



◆4-10 CODE 11 の読込設定 1

設定手順



CODE11 の読込に関する詳細設定を行います。

*CODE11 は、日本では殆ど使われていないため詳細説明は省略します。

■チェックデジットの扱い

処理はしない

1桁：チェックし送信

1桁：チェックするが送信しない

2桁：チェックし送信

2桁：チェックするが送信しない

*出荷時は【処理はしない】

チェックデジットの計算を行いません。

1桁チェックデジットを計算し送信します。

1桁チェックデジットを計算しますが送信しません。

2桁チェックデジットを計算し送信します。

2桁チェックデジットを計算しますが送信しません。



■チェックデジットの送信



1桁チェックデジットは
チェックし送信する



1桁チェックデジットは
チェックするが送信しない



2桁チェックデジットは
チェックするが送信しない

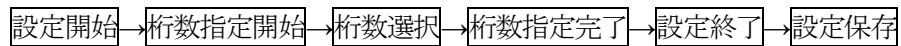


2桁チェックデジットは
チェックし送信する



◆4-10 CODE 11 の読込設定 2

設定手順 桁数



*桁数選択は、P101 付属テーブル I 数字のバーコード一覧から選択します。

CODE11 の読込に関する詳細設定を行います。

*CODE11 は、日本では殆ど使われていないため詳細説明は省略します。

必要な場合は、特定の桁数に固定できます。

■読込桁数の固定 1・2 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)

必要に応じて、読込可能な桁数を 2 種設定できます。

■読込最小桁数を指定 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)

必要に応じ、読込可能な最初小桁数を制限できます。

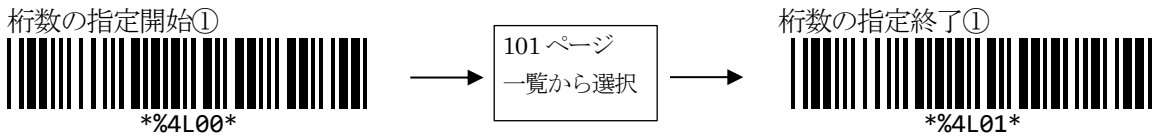
◆4-10 CODE 11 の読込設定 2



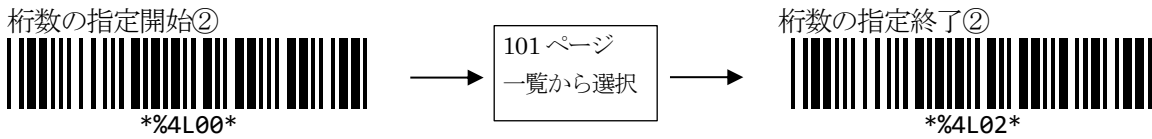
■CODE11 読込桁数の固定
【可変】(桁数を固定しない)



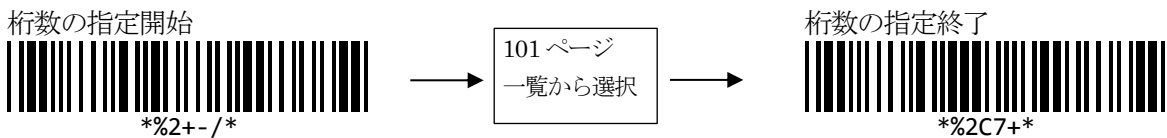
■CODE11 読込桁数を固定 1/2



■CODE11 読込桁数を固定 2/2



■CODE11 読込最小桁数を指定



◆4-11 MSI/PLESSEY の読込設定

設定手順 チェックデジット

設定開始 → 設定項目 → 設定終了 → 設定保存

MSI/PLESSEY の読込に関する詳細設定を行います。

*MSI/PLESSEY は、日本では殆ど使われていないため詳細説明は省略します。

■チェックデジットの扱い

処理はしない

チェックはするが送信しない

送信する

*出荷時は【処理はしない】

チェックデジットの計算を行いません。

チェックデジットの計算は行うが、送信はしません。

チェックデジットの計算を行い送信します。

設定手順 桁数

設定開始 → 桁数指定開始 → 桁数選択 → 桁数指定完了 → 設定終了 → 設定保存

*桁数選択は、P101 付属テーブル I 数字のバーコード一覧から選択します。

必要な場合は、特定の桁数に固定できます。

■読込桁数の固定 1・2 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)

必要に応じて、読込可能な桁数を 2 種設定できます。

■読込最小桁数を指定 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)

必要に応じて、読込可能な最初小桁数を制限できます。

◆4-11 MSI/PLESSEY の読込設定



■チェックデジットの送信
処理はしない



送信する



【チェックするが送信しない】



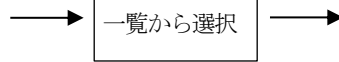
■MSI/PLESSEY 読込桁数の固定

【可変】(桁数を固定しない)



■MSI/PLESSEY 読込桁数を固定 1/2

桁数の指定開始①

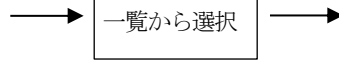


桁数の指定終了①



■MSI/PLESSEY 読込桁数を固定 2/2

桁数の指定開始②

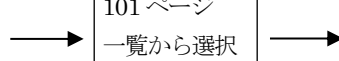


桁数の指定終了②



■MSI/PLESSEY 読込最小桁数を指定

桁数の指定開始



桁数の指定終了



◆4-12 Code 2 of 6 の読込設定

設定手順 チェックデジット



Code 2 of 6 の読込に関する詳細設定を行います。

*Code 2 of 6 は、日本では殆ど使われていないため詳細説明は省略します。

■チェックデジットの扱い

処理はしない

チェックはするが送信しない

送信する

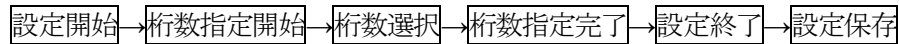
*出荷時は【処理はしない】

チェックデジットの計算を行いません。

チェックデジットの計算は行うが、送信はしません。

チェックデジットの計算を行い送信します。

設定手順 桁数



*桁数選択は、P101 付属テーブル I 数字のバーコード一覧から選択します。

必要な場合は、特定の桁数に固定できます。

■読込桁数の固定 1・2 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)

必要に応じて、読込可能な桁数を 2 種設定できます。

■読込最小桁数を指定 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)

必要に応じて、読込可能な最初小桁数を制限できます。

◆4-12 Code 2 of 6 の読込設定



■チェックデジットの送信
【処理はしない】



チェックするが送信しない

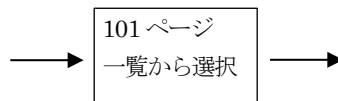


■Code 2 of 6 読込桁数の固定
【可変】 (桁数を固定しない)



■Code 2 of 6 読込桁数を固定 1/2

桁数の指定開始①

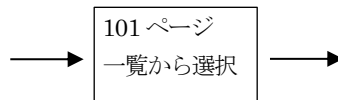


桁数の指定終了①



■Code 2 of 6 読込桁数を固定 2/2

桁数の指定開始②

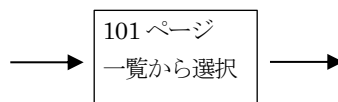


桁数の指定終了②



■Code 2 of 6 読込最小桁数を指定

桁数の指定開始



桁数の指定終了



◆4-13 LCD255 の読込設定

設定手順 チェックデジット

設定開始 → 設定項目 → 設定終了 → 設定保存

LCD255 の読込に関する詳細設定を行います。

*LCD255 は、日本では殆ど使われていないため詳細説明は省略します。

■チェックデジットの扱い

処理はしない

チェックはするが送信しない

送信する

*出荷時は【処理はしない】

チェックデジットの計算を行いません。

チェックデジットの計算は行うが、送信はしません。

チェックデジットの計算を行い送信します。

設定手順 桁数

設定開始 → 桁数指定開始 → 桁数選択 → 桁数指定完了 → 設定終了 → 設定保存

*桁数選択は、P101 付属テーブル I 数字のバーコード一覧から選択します。

必要な場合は、特定の桁数に固定できます。

■読込桁数の固定 1・2 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)

必要に応じて、読込可能な桁数を 2 種設定できます。

■読込最小桁数を指定 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)

必要に応じ、読込可能な最初小桁数を制限できます。

◆4-13 LCD255 の読込設定



■チェックデジットの送信
【処理はしない】



チェックするが送信しない

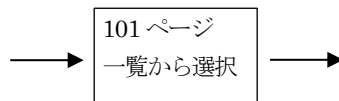


■LCD255 読込桁数の固定
【可変】(桁数を固定しない)



■LCD255 読込桁数を固定 1/2

桁数の指定開始①

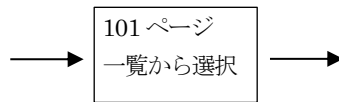


桁数の指定終了①



■LCD255 読込桁数を固定 2/2

桁数の指定開始②

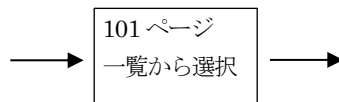


桁数の指定終了②



■LCD255 読込最小桁数を指定

桁数の指定開始



桁数の指定終了



◆4-14 Telepen の読込設定 1

設定手順 チェックデジット



Telepen の読込に関する詳細設定を行います。

*Telepen は、日本では殆ど使われていないため詳細説明は省略します。

■Telepen のタイプ選択 *出荷時は【Full ASCII モード】

■チェックデジットの扱い
処理はしない
チェックはするが送信しない
送信する

*出荷時は【チェックはするが送信しない】
チェックデジットの計算を行いません。
チェックデジットの計算は行うが、送信はしません。
チェックデジットの計算を行い送信します。

◆4-14 Telepen の読込設定 1

設定開始



%\$/3

■Telepen のタイプ

【Full ASCII モード】



%0T80

ノーマルモード



%0T88

■チェックデジットの送信

処理はしない



%0TN3

送信する



%0TN7

【チェックするが送信しない】



%0TN5

設定終了



%\$/4

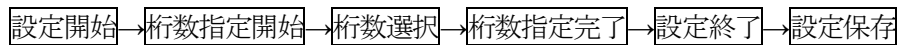
設定内容保存



%\$/0

◆4-14 Telepen の読込設定 2

設定手順 桁数



*桁数選択は、P101 付属テーブル I 数字のバーコード一覧から選択します。

Telepen の読込に関する詳細設定を行います。

*Telepen は、日本では殆ど使われていないため詳細説明は省略します。

必要な場合は、特定の桁数に固定できます。

■読込桁数の固定 1・2 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)
必要に応じて、読込可能な桁数を 2 種設定できます。

■読込最小桁数を指定 *出荷時は【可変】(桁数を固定しない)
必要に応じ、読込可能な最初小桁数を制限できます。

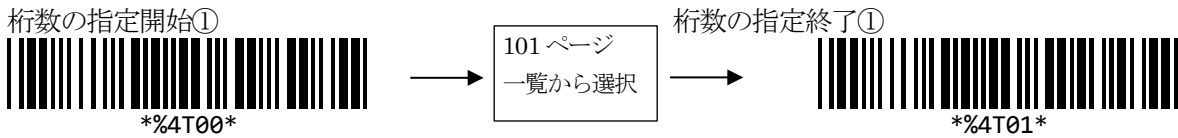
◆4-14 Telepen の読込設定 2



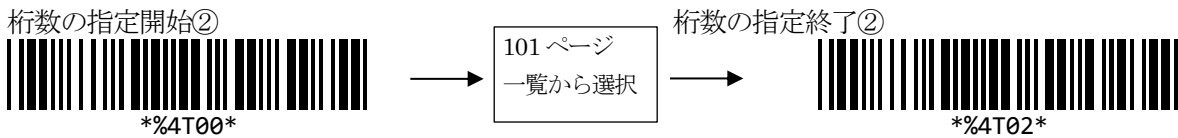
■Telepen 読込桁数の固定
【可変】(桁数を固定しない)



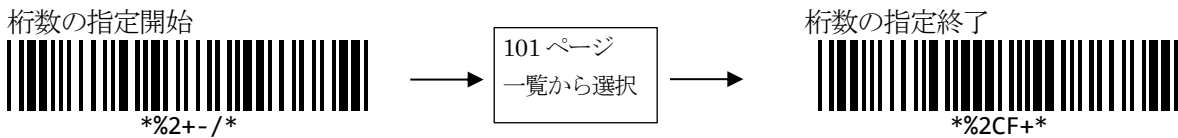
■Telepen 読込桁数を固定 1/2



■Telepen 読込桁数を固定 2/2



■Telepen 読込最小桁数を指定



◆4-15 GS 1 Databar の読込設定



■GS 1 Databar Omnidirectional の設定



■GS 1 Databar Limited の設定



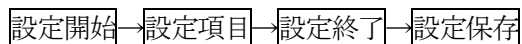
■GS 1 Databar Expanded の設定



5 その他の設定

◆5-1 言語選択

設定手順



- キーボード言語を選択します。 *出荷時は【US English】
機種と出荷時期により、日本語に設定の場合も有り。

言語の設定が正しくないと、記号の一部が文字化けします。

言語設定確認サンプル



上記バーコードは、CODE39 で、以下のデータを一文字化けしました。

1-. \$/ +%

(数字の1、ハイフン、ピリオド、スペース、ドル、スラッシュ、プラス、パーセント)
文字化けの無い事を確認して下さい。

例

日本語に設定



◆5-1 言語選択

設定開始



%\$/3

■Keyboard 言語の選択

【US English】



%0ZV0

Italian



%0ZV2

French



%0ZV4

Swedish



%0ZV6

Hungarian



%0ZV8

Belgium



%0ZVA

Denmark



%0ZVC

UK English



%0ZV1

Spanish



%0ZV3

German



%0ZV5

Switzerland



%0ZV7

日本語



%0ZV9

Portuguese



%0ZVB

Netherlands



%0ZVD

設定終了



%\$/4

設定内容保存



%\$/0

◆5-2 バーコード ID

設定手順



■バーコード種別 ID の付加 *出荷時は【付加しない】
読み込んだバーコードに、バーコードの種類毎の ID を付けて送信します。
バーコードの種類を、知ることが出来ます。

■Default に戻す
ユーザー編集のバーコード ID を出荷時の設定に戻します。

バーコードの種類毎の ID 文字は表の通りです。
81 ページ以降の手順で、ID 文字変する事も出来ます。

バーコード	ID	バーコード	ID	バーコード	ID
UPC-A	A	Matrix 25	I	LCD25	R
UPC-E	B	Codabar/NW7	J	Telepen	S
EAN-8	C	CODE 93	K	GS1 Databar	T
EAN-13	D	CODE 11	L	GS1 Databar Omnidirection	U
CODE 39	E	China Postage	M	GS1 Databar Omnidirection	V
CODE 128	F	MSI/PLESSEY	N	GS1 Databar Expanded	W
Interleave 25	G	Code 2 of 5	P		
Industrial 25	H	LCD25	Q		

◆5-2 バーコード ID

設定開始



%\$+/3

■バーコード種別 ID の付加

付加する



%00H1

【付加しない】



%00H0

Default に戻す



%913+

設定終了



%\$+/4

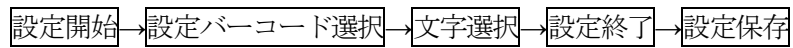
設定内容保存



%\$+/0

◆5-2 バーコード ID 2

設定手順



*文字選択は、102～106 ページ 付属テーブル II ASCII 文字 1 一覧から選択します。

■バーコード種別ユーザーIDの付加 *出荷時は【付加しない】
読み込んだバーコードの種別毎にバーコード種別 ID 文字を設定します。

設定開始



%\$/3

■バーコード種別 ID ユーザー設定(バーコード種別毎にユーザー設定)

UPC-A



%91A+

EAN-13/JAN-13



%91Y+

CODE 39



%91E+

CODABAR/NW 7



%91J+

Industrial 25



%91H+

CODE 93



%91K+

UPC-E



%91B+

EAN-8/JAN8



%91Z+

CODE 128



%91F+

Interleave 25



%91G+

Matrix 25



%91I+

CODE 11



%91L+

設定終了



%\$/4

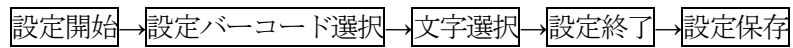
設定内容保存



%\$/0

◆5-2 バーコード ID 3

設定手順

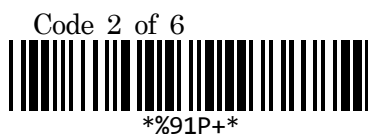


*文字選択は、102～106 ページ 付属テーブル II ASCII 文字 1 一覧から選択します。

■バーコード種別ユーザーIDの付加 *出荷時は【付加しない】
読み込んだバーコードの種別毎にバーコード種別 ID 文字を設定します。



■バーコード種別ID ユーザー設定(バーコード種別毎にユーザー設定)



◆5-3 ネガ反転バーコード

設定手順



■ネガ反転の設定 *出荷時は【読込しない】

ネガ印刷（白黒反転）バーコードの読み込みに対応します。



ネガ印刷バーコードの例

◆5-4 読込データ検証

■読込データ比較 *出荷時は【1回】

バーコードの読込は、非常に高速に細密に行っています。

印刷の汚れや、光の反射などで、思わぬ誤読をする場合があります。

読込データ比較を、複数回に設定すると、誤読を防ぐことができます。

必要以上の回数は、スキャナーの内部処理の多大な負荷となります。

◆5-5 ブザー音

■ブザー音 *出荷時は【高】

デコード完了時のブザー音を設定します。

使用環境にあった設定を行って下さい。

◆5-3 ネガ反転バーコー

設定開始



%\$/3

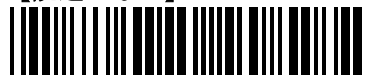
■ネガの設定

ネガバーコードも読込



%03I2

【読込しない】



%03I0

◆5-4 読込データ検証

【1回】



%0130

2回



%0131

3回



%0132

4回



%0133

◆5-5 ブザー音

【高】



%01J3

中



%01J2

低



%01J1

Off



%01J0

設定終了



%\$/4

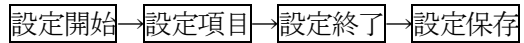
設定内容保存



%\$/0

◆5-5-2 ブザー音の設定 II (オプション設定)

設定手順



■起動時のブザー音

電源 ON 時のブザー音を設定します。

この設定は、オプションを備えたスキャナーでのみ有効です。

■バイブレーション設定

読み取り完了時の合図をバイブレーションで案内します。

この設定は、オプションを備えたスキャナーでのみ有効です。

■バイブレーション時間設定

バイブレーションの動作時間を設定します。

この設定は、オプションを備えたスキャナーでのみ有効です。

◆5-5-2 ブザー音の設定 II (オプション設定)

設定開始



%\$+/3

■起動時のブザー音

【高音量】



%A4J3

低音量



%A4J1

消音



%A4J0

■バイブレーション設定

ON



%09K4

【OFF】



%09K0

■バイブレーション時間設定

50ms



%A471

【100ms】



%A472

300ms



%A473

500ms



%A474

設定終了



%\$+/4

設定内容保存



%\$+/0

◆5-6 スキャン間隔

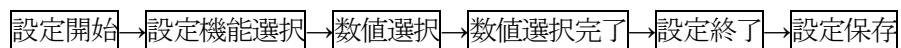
設定手順



連続読み込みモード時に同じバーコードに反応するまでの待ち時間を設定します。
有効な読込モードは、Flash, Continuous, Auto Sense などです

■同一バーコードの再読込待ち時間 *出荷時は【短い】
簡単設定では、長め短めの2通りから選択します。

設定手順 詳細設定



*桁数選択は、101 ページ
付属テーブル I 数値から選択します。

■同一バーコードの再読込待ち時間 *出荷時は【短い】
詳細設定では、1～50の数値で設定できます。設定範囲は0.1秒～5秒(0.1秒刻み)

◆5-6 スキャン間隔



■自動感知同一バーコードの再読込待ち時間

簡単設定

【短い】



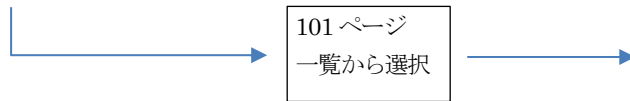
長い



■自動感知同一バーコードの再読込待ち時間

詳細設定

間隔マニュアル指定開始



間隔指定完了

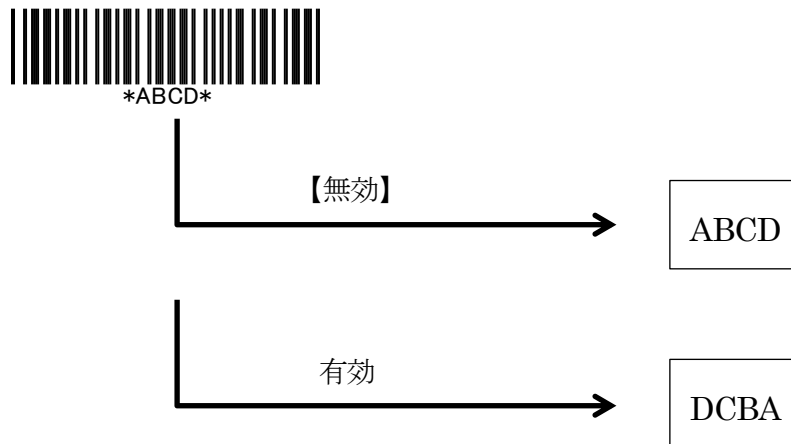


◆5-7 逆転送信

設定手順



■データの逆転送信 *出荷時は【無効】
読み込んだデータを、下の桁から送信します。



◆5-7 逆転送信



■データの反転送信（下桁から送信）

【無効】

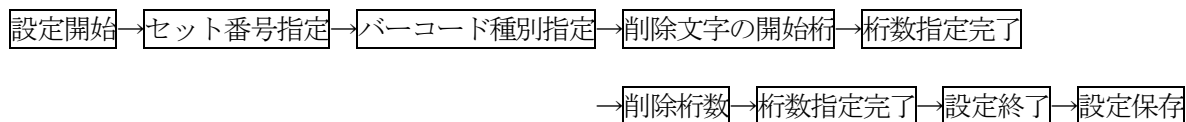


有効



◆5-8 データ編集(削除)

設定手順



*桁数選択は、P101 付属テーブル I 数字のバーコード一覧から選択します。

読み込んだバーコードのデータを、指定桁位置から、指定桁数削除して出力します。

バーコード種類を指定して編集が可能です。

6セット設定が可能です。

例

次の様なバーコードがあった場合、5桁目から2桁削除の設定をすると

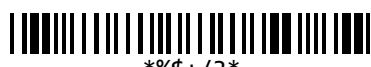


ABC12345DE

CODE 39 ”*ABC12345DE*”

読み取り結果は、「ABC145DE」となります。

スタート・ストップコードは、桁数に含みません。



%\$/3

設定開始



%800+

1 St.セット



%81E+

CODE39



5

5桁



%820+

桁数指定完了



2

削除文字数



%830+

削除文字数完了



%\$/4

設定終了



%\$/0

設定保存

◆5-8 データ編集(削除)



バーコードデータの編集 (データ削除)

■削除セットの選択

1st. セット



2nd. セット



3rd. セット



4th. セット



5th. セット



6th. セット



■バーコード種別を選択

UPC-A



EAN-13/JAN-13



CODE 39



CODABAR/NW 7



Industrial 25



CODE 93



ChinaPostage



UPC-E



EAN-8/JAN8



CODE 128



Interleave 25



Matrix 25



CODE 11

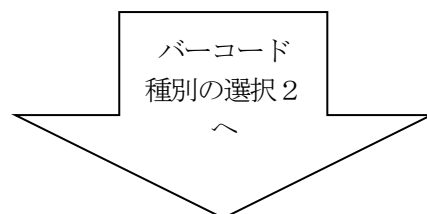


MSI/PLESSEY

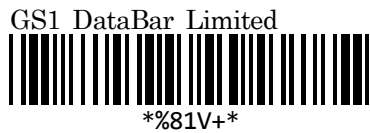
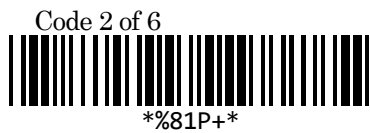


次のページも、バーコード種別の選択が続きます。

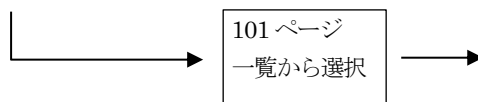
このページに無かったバーコードは、次頁へ



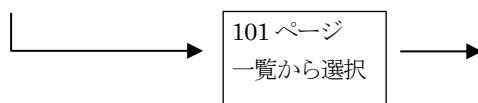
■バーコード種別を選択 2



削除文字の開始桁数

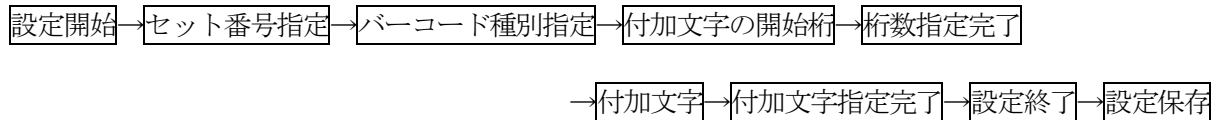


削除の文字数



◆5-9 データ編集(付加)

設定手順



*桁数選択は、P101 付属テーブル I 数字のバーコード一覧から選択します。

*文字選択は、102～106 ページ 付属テーブル II ASCII 文字 一覧から選択します。

*ファンクション選択は、107 ページ 付属テーブル III ファンクションキー 一覧から選択します。

読み込んだバーコードのデータを、指定桁位置に、指定文字(数字)追加して出力します。
バーコード種類を指定して編集が可能です。

6セット設定が可能です。

例

次の様なバーコードがあった場合、4桁目に”FG”の追加を設定をすると



ABC12345DE

CODE 39 ”*ABC12345DE*”

読み取り結果は、「ABCFG12345DE」となります。

スタート・ストップコードは、桁数に含みません。



%\$/+3

設定開始



%500+

1 St.セット



%51E+

CODE39



2

4



%520+

桁数指定完了



46

F



47

G



%530+

付加文字設定完了



%\$/+4

設定終了



%\$/+0

設定保存

◆5-9 データ編集(付加)



バーコードデータの編集 (データ付加)

■付加セットの選択



■バーコード種別を選択

UPC-A



%51A+

EAN-13/JAN-13



%51Y+

CODE 39



%51E+

CODABAR/NW 7



%51J+

Industrial 25



%51H+

CODE 93



%51K+

ChinaPostage



%51M+

UPC-E



%51B+

EAN-8/JAN8



%51Z+

CODE 128



%51F+

Interleave 25



%51G+

Matrix 25



%51I+

CODE 11



%51L+

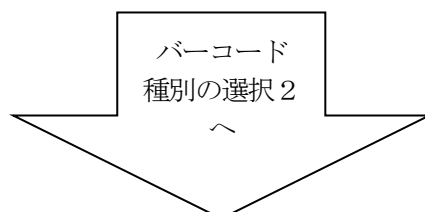
MSI/PLESSEY



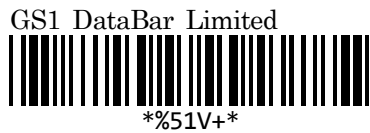
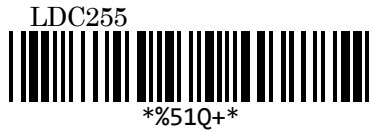
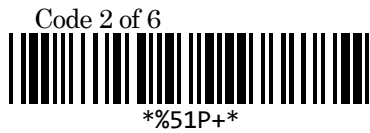
%51N+

次のページも、バーコード種別の選択が続きます。

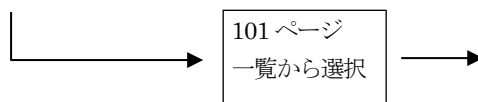
このページに無かったバーコードは、次頁へ



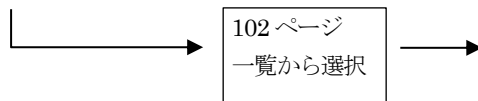
■バーコード種別を選択2



付加文字の開始桁数



付加文字の指定



付属テーブル I

数字



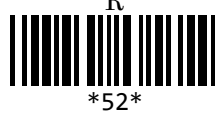
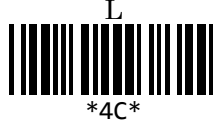
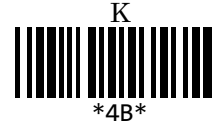
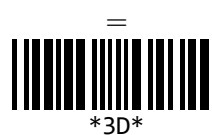
付属テーブル II ASCII 文字 1



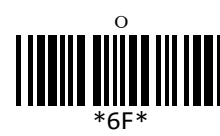
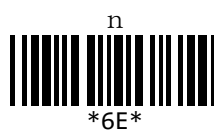
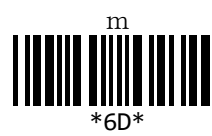
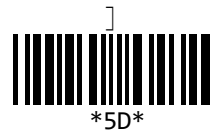
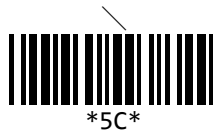
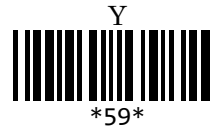
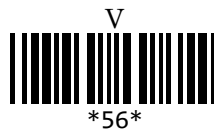
ASCII 文字 2



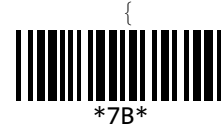
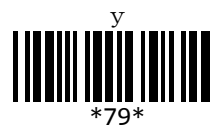
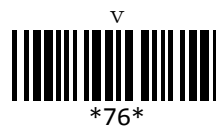
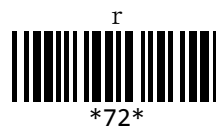
ASCII 文字 3



ASCII 文字 4



ASCII 文字 5



付属テーブル Ⅲ

ファンクションキー

